

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

第5号

ヒバクシャ医療の「今」を発信する



SUMMER

1999



発行◎平成11年8月1日
 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
 〒850-8570 長崎市江戸町2-13
 (長崎県原爆被爆者対策課内)
 Tel. 095-823-4278
 Fax 095-820-3037

What's Publish Project

出版事業

Photo Exhibition

「セミパラチンスク写真展」開催のお知らせ

Reports

日本赤十字社専門医師研修事業

Topics

平成11年度研修生受け入れ事業スタート

NASHIM's Works

韓国からの医師招聘2名に増加

Letter Box

毎年6000人の検診を続ける
 コロステン診断センター

ルーマニア共和国クラウチェンカ駐日大使、
 長崎大学医学部を訪問

NASHIM 出版事業

出版事業とは、ヒバクシャ医療、特に国際ヒバクシャ医療に関する普及、啓蒙を目的として各種の出版事業を行うもので、平成10年度は「台湾の放射能汚染問題」の翻訳出版を行いました。



NASHIMではこれまで、ヒバクシャ医療、特に国際ヒバクシャ医療に関する普及、啓蒙を目的として、各種の出版事業を行ってきました。具体的には平成8年度にセミパラチンスク核実験場周辺住民の健康状態を綿密に調査し、その影響を報告した「中部カザフスタンにおける住民及び家畜の健康状態」の邦訳版の出版を行ったのははじめ、平成9年度には、チエルノブイリ事故後の現場の様子を克明に記した「チエルノブイリ—虚偽と真実」の邦訳版の出版、外務省との共同事業でベラルーシ共和国の医学生、医師のために作成した甲状腺の教科書「Thyroid:

Basic Aspect」の露語出版を行いました。

今回NASHIMは、平成10年度の出版事業として「台湾の放射能汚染問題」の邦訳出版を行いました。この本は、これまで日本ではあまり知られていなかった、台湾でのコバルト60（放射性核種の一種）が建築用の鉄骨に誤って混入されたことによる放射能汚染について、実際に被害者の立場にある王玉麟氏がその実態を調査報告しているものです。また平成11年度には永井隆博士の出版物の英訳版の出版等も予定されています。

「なしむ」のような広報誌や、あるいは一般の方向けに放射能についての知識をQ&A方式でまとめた「放射能Q&A」といった小冊子の出版も行っています。NASHIM出版物は、原則として全国の県立図書館やマスコミ関係、あるいは長崎県内の高校の図書館に寄贈していますが、もし本を御希望の方がいらっしゃいましたら、NASHIM事務局（長崎県原爆被爆者対策課内TEL 095・823・4278）に御連絡下さい（ただし、各出版物とも部数に限りがありますので、場合によってはお渡しできない場合があります）。

Photo Exhibition

[セミパラチンスク写真展]

～ソ連の核実験場・被曝の大地～

8月1日～9月30日

長崎原爆資料館地下2階エントランスホール



1949年8月29日、旧ソ連邦で初めての核実験がカザフスタン共和国のセミパラチンスク核実験場において行われました。それ以来1989年に至るまで同核実験場では地上、地下併せて450回以上にも及ぶ核実験が行われました。この間周辺住民には何も知らされず、多くの住民が被曝しましたが、その実態は闇に葬られ、旧ソ連が崩壊した現在においてもその全貌は明らかになっていません。今年、第1回の核実験からちょうど50年という節目の年に当たります。NASHIMでは、(財)長崎平和推進協会との共同開催で8月1日～9月30日に長崎原爆資料館地下2階エントランスホールにおいてセミパラチンスク写真展を行うことになりました。これは、旧ソ連時代のセミパラチンスクにおいて何が行われたかを紹介すると同時に、実際の核実験の様相や実験場周辺の様子などを公開する予定です。また、50周年記念日である8月29日の前後には、現地のセミパラチンスク医科大学と姉妹校の関係にある長崎大学医学部を衛星回線で結び、セミパラチンスク側から送られてきた甲状腺エコーの画像や顕微鏡の画像を、「テレメディスンシステム(Telemedicine)」の開通式も予定されており、今後ますます長崎からの医療協力と、セミパラチンスクとの学術交流を積極的に行っていく予定です。(上記写真は、1955年11月22日の水爆実験。ソ連の航空機から投下され、セミパラチンスクでは最大規模の水爆実験となった。これにより、ソ連は水爆の航空機搭載が可能であることを示した。)

NASHIM's Works

韓国からの医師招聘 2名に増加

NASHIMによる外国人医師招聘事業では、韓国からの場合、過去3回にわたって毎年、韓国赤十字社の推薦による1名のソウル赤十字病院の医師の受け入れを行ってきました。昨年には長崎からも韓国を訪問し、種々の意見交換を行った結果、今年度より研修生を2名に増員し、1名は従来どおり韓国全体の被爆医療に責任をもつソウル赤十字病院から、もう1名は被爆者医療に直接従事している現場の医師またはコメディカルの職員を招き、韓国の被爆者医療の実態にあわせた調整を行うことが決まりました。これにもとづいて、ソウル赤十字病の臨床病理科のクオン ジョンア(権 貞兒)医師とハプチョンの原爆被爆者特別養護ホームの医療を担当しているハプチョン保健所のムン チャンホ(文 昶皓)医師のお二人を3月8日より2週間にわたってお迎えしました。お二人とも流ちょうな英語を話し、さらにムン先生は、小学校時代を日本で過ごした経験があり、日本語が全く不自由がないため、研修はきわめてスムーズに行われました。

お二人にとって、被爆者に対する医療がよく整備されている日本の状況は大変勉強になったようで、原研、原爆病院、原爆ホーム、被爆者検査センターなどで精力的に視察と研修をこなし、各施設の日本側の指導者達との交流も積極的に行って、終了時点では、被爆者医療に必要な基本的事項をほとんどマスターして、びっくりするくらいの成果をあげておられました。さらに両医師には、ご自分の専門の領域についても多忙な中を、それぞれ大学病院の泌尿器科(斉藤泰教授)と臨床検査科(上平憲教授)において視察と交流をしていただき、こちらでも大きな成果をあげられました。日本の社会の現状についても好奇心旺盛に、あちこちをみて回り、送別の宴での日本の分析の話はなかなかのもので、将来にわたる日本と韓国の交流のあり方について会話も盛り、またの再会を約して元気に帰って行かれました。クオン先生、ムン先生ご苦労様でした。

これまでに合計5名の韓国の医師が長崎において被爆者医療を学ぶ機会を持ったことは、現在3,000名以上の韓国各地に生活している被爆者の医療の推進に大きな力となって、将来的にこの方面の医療が充実していく原動力となることが期待されます。今後も定期的に日本からも訪問して交流を拡げ、情報交換とともに、被爆者の方々にも直接お会いして、原爆後障害医療の進歩などのお話もしていければと考えています。今後は、看護婦の受け入れも現在検討中です。



Reports 研修レポート

日本赤十字社 専門医師研修事業

日本赤十字社は、チェルノブイリ原発事故後、様々な支援活動を行ってきましたが、長崎、広島両方においても、これまで日本支部を通じて、チェルノブイリ被災者救済医師招聘研修事業を実施してきました。平成10年度も、NASHIMの協力をもとに、現地で事故後の実際の巡回診療に携わっている医師の招聘研修を、平成11年1月から2月にかけて行いました。招聘医師は、ウクライナから、イヴァン、ニキフォルク医師、ベラルーシから、ウラジミール、シヴダ医師と、タリアナ、シシユミントセヴァ医師の計3名で、いずれも巡回診療では主に、超音波診断装置を用いての甲状腺の検診を行っている方々です。長崎での研修は、日赤長崎原爆病院、長崎大学第一内科、長崎大学原研の各施設、放影研、



原爆被爆者対策協議会、日赤支部等で行いました。研修内容は、放射線の基礎的研究から、長崎における原子爆弾の人体への影響及び後遺症などの渡学調査、甲状腺や血液疾患と放射線との関連と、その病理組織学的検査、長大あるいは原爆病院での実際に超音波装置を用いての実習、長崎における被爆者検診のシステム、原爆ホームに入所されている被爆者との交流、等多岐に渡りました。今回来崎した医師達も、現地では十分整備されていない医療環境のもと、安全性にも問題、不安を抱えながら、毎日巡回診療を行っています。日本、長崎での体験、研修が少しでも今後の彼らの仕事に役立つ事を願いながら、今回の事業を終了しました。

TOPICS 平成11年度 研修生受け入れ事業 スタート

NASHIMの事業の一つである平成11年度の研修生受け入れ事業が今年も7月15日からスタートします。

今年、ロシア連邦、ベラルーシ共和国、カザフスタン共和国の旧ソ連邦諸国で放射線障害の治療にあたっている医師たちと、アメリカ合衆国の医師の5名の研修医を独自に受け入れます。

この5名のほかに(財)笹川記念保健協力財団の依頼でベラルーシ共和国から2名の研修医が加わり、総勢7名が7/15~8/14の31日間研修を受けます。

研修医たちは、それぞれ放射線生物学、疫学、情報システム学、公衆衛生学、内分泌学等の専門家で、長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設(原研)や、長崎原爆病院等で専門研修を受けるほか、原研公開セミナー参加や、8月9日の平和記念式典への参列も行います。

また、平和記念式典をはさんだ1週間程度、秋田ベラルーシ友好協会が受け入れた研修医3名の来崎もあり、賑やかな研修になりそうです。

Letter Box

NASHIMへのおたよりコーナー

長崎から、全国から、そして世界から、毎回たくさんの方々にご参加いただいている公開セミナーや研修会。このおたよりコーナーでは、そんなみなさんからNASHIMへお寄せいただいた温かい激励やメッセージをご紹介します。



毎年6000人の検診を続ける コロステン診断センター

BHNテレコム支援協議会
常任理事・事務局長
篠原 浩一郎さん

1996年の秋のキエフは黄金色に白樺が輝いていました。笹川チェルノブイリ支援プロジェクトの完了を記念した国際セミナーで、私どもBHNテレコム支援協議会の代表団は、初対面の長崎大学医学部山下教授にウクライナジトミル州コロステン診断センターのダニリュク所長を紹介されました。翌日、それまで5年間長崎大学の指導の下で小児検診を続けてきたセンターを見学しました。ウクライナ側で建設した立派な建物、すばらしく訓練された医師や技師たち、5年経っても新品のような設備、そして今なお検診を必要としている多くの子供たちの行列。しかし、笹川財団の試薬の供給が打ち切られるとセンターは閉鎖されるとのことでした。そこで私達が代わって出来る限り試薬の供給をすることにしました。それから現在まで、ダニリュク所長たちの奮闘と長崎大学の協力そして私達のささやかな支援でセンターは毎年6000人の検診を続けています。

この間コロステン以外でも、長崎大学の放射能災害対策のプロジェクトには、私達の本来の任務である電気通信を活用した人道支援の立場から参加させていただいてきました。これは同時に、放射能汚染に科学的に立ち向かう医師たちの国際交流を深める「なしむ」の活動のお手伝いもしているのだと勝手に思っています。これからも宜しくお願いします。

Schedule

今後のスケジュール

7月15日(木)～8月14日(土)

チェルノブイリ・カザフスタン
研修生受入れ事業
(秋田・ベラルーシ友好協会との共同事業、
笹川保健記念協力財団の窓口事業を併催)

8月1日(日)～9月30日(木)

セミパラチンスク写真展
(長崎原爆資料館地下2階エントランスホール)

8月7日(土)

原研公開セミナー(13:00～)
於 長崎大学医学部ポンベ会館
問い合わせ:長崎大学医学部原研国際
TEL:095-849-7122
FAX:095-849-7169

編集後記

長崎は今年で54回目の原爆記念日を迎えますが、長崎原爆から4年後の1949年8月29日に、長崎に落とされた原爆と同じプルトニウム爆弾が、カザフスタン共和国のセミパラチンスク核実験場で爆発したことは日本人には意外と知られていません。今年でセミパラチンスクの第1回核実験から50年。日本と同じように、むしろより深刻にヒバクシャの高齢化がセミパラチンスクにも襲ってきています。今後同じ被爆地として、長崎がより貢献できる道を模索したいと考えています。

NASHIMのホームページのアドレスが変更になりました。

<http://village.infoweb.ne.jp/~nashim/>

News

ベラルーシ共和国 クラウチェンカ駐日大使、 長崎大学医学部を訪問

去る5月6日、ベラルーシ共和国のクラウチェンカ駐日大使が長崎大学医学部を訪問され、本年2月より長崎大学医学部とベラルーシのゴメリ診断センターとの間で行われている遠隔医療システム(テレメディシン)や、原研情報室の長崎原爆被爆者登録システムの見学をされました。

大使は、テレメディシンシステムについて熱心に質問され、日本の医師による診断支援によって、現地の子供たちに福音がもたらされるだろうと、感謝の言葉を述べられました。

非常に短時間の訪問ではありましたが、大使は、今後ベラルーシ大使館としても長崎が行っている国際ヒバクシャ医療をサポートしたいと述べられました。これまでもNASHIMは毎年夏にベラルーシからの医師、専門家の研修事業を行っており、さらに平成9年度には外務省との共同事業で甲状腺の教科書を露語出版しました。今後ともNASHIMとしても、積極的にベラルーシとの交流を進めていく予定です。



Information

第3回 「永井 隆」 平和記念・長崎賞

募集のお知らせ

「永井隆」平和記念・長崎賞はNASHIMの事業の一環として長崎原子爆弾被爆50周年にあたる平成7年度に創設し今回が第3回目の実施となります。

原子爆弾による被爆者、放射線事故等による被災者の治療および調査研究等の分野において、ヒバクシャ医療の向上・発展、ヒバクシャの福祉向上を通じて世界平和に貢献し、将来に活躍が期待される国内外の個人または団体に授与します。

賞受賞にふさわしい候補者がおられたら8月20日まで推薦をお願いします。

